

2026 年 9 月 1 日発行

今村証券株式会社

商 号 等 : 今村証券株式会社

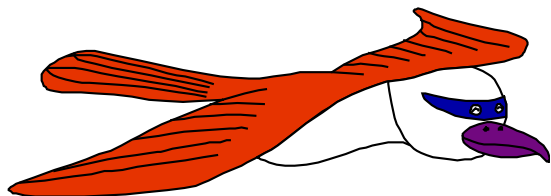
金融商品取引業者 北陸財務局長 (金商) 第 3 号

加入 協 会 : 日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会

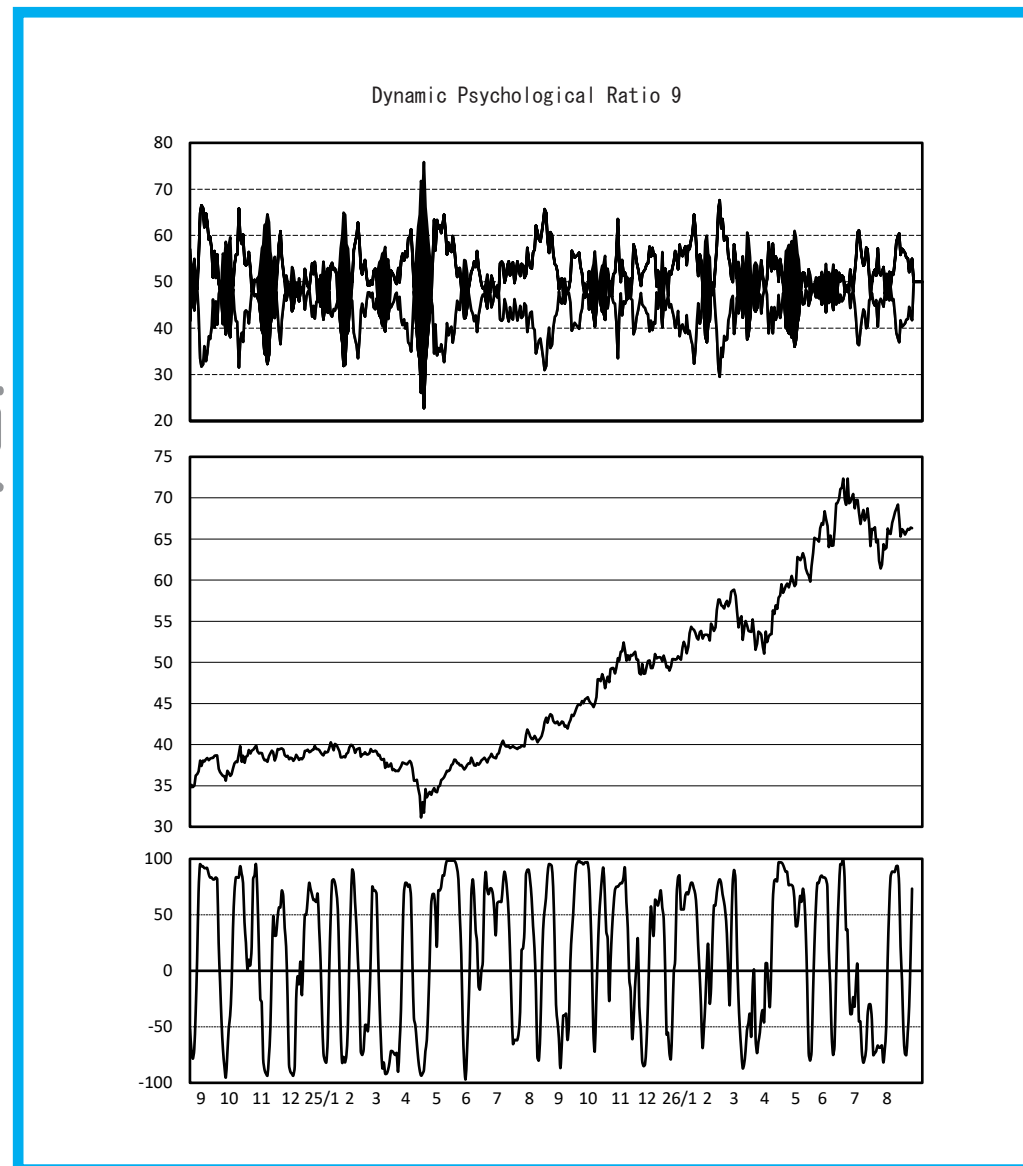
制作責任者 : 営業推進部 調査課

情報シャトル特急便

第 8 0 2 号



豪雨で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、
一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
中図は日経平均株価

下図はRCI (9 日ベース) で、 -80% ラインを上につき抜け→買い場
80% ラインを下につき抜け→売り場

大 所 高 所

8月の国内相場は前半、急落からの反転が見られたものの、後半はだらだら下げる展開となり、夏枯れ相場の様相となってしまった。AI半導体銘柄の勢いが戻らないのが原因だ。26日に出たエヌビディアの好決算でも反応は限定的だった。そんな地合いの中、ジャクソンホール会議で米FRBウォーシュ議長の利上げに含みを持たせる発言も出て、株式市場には更なるマイナスの影響を与えた。これは株式だけではなく為替にも影響を与え、ドル円は一時160円台まで戻した。今まで、ベッセント財務長官は、日米の協調為替介入や米国の長期金利の上昇を抑えようと、長期債の買い入れ消却拡大など、市場への介入姿勢を強めていた最中の出来事だ。米国の中間選挙対策として、トランプ大統領はインフレ対策と株価上昇や景気拡大といった、相反した政策を欲しているため、財務長官とFRBの相反するような動きとなり、現れているのかもしれない。

閑話休題、米アップルの新たなCEOが登場する。久しぶりの新製品が出て明るい話題となることを期待している。
(nil admirari)

た だ 一 筋

9月相場に入り、今週末には米国で雇用統計が発表される。週末に注目イベントを控えるスケジュールのため先週同様、今週も方向感が出づらくなりそう。ジャクソンホール会合でウォーシュFRB議長が、今後の利上げに含みを持たせインフレ抑制を優先する姿勢をより明確に示した。これにより、金利の上昇が株式市場の上値を抑える展開となりそう。半導体関連株の日柄調整はまだしばらく続きそうで、日経平均株価の66,000～67,000円台は出来高が多い価格帯で戻り待ちの売りも多くなる。

一方、個別株の物色意欲は旺盛でTOPIXは昨日まで8連騰、グロース250指数の動きも良くなっている。金属価格の上昇を受け非鉄株に物色が向かったほか、米ソフトウェア大手セールスフォースの好決算を受け、国内SaaS関連が物色された。半導体関連株の調整をきっかけにほかのセクターに物色が広がっており、循環物色の継続に期待したい。

防衛省がNTTの次世代光通信基盤IOWN（アイオン）の中核技術の導入を決めた。年初来高値を更新したNTT（9432）に注目している。

（塞翁が馬）

参見屋 たり 当

エヌビディアの決算とジャクソンホール会議を終え、AI相場は大型半導体株からニッチトップの中小型株へ物色がシフトする「第二幕」へ突入しつつあると考えている。

そこで注目したい銘柄がラサ工業（4022）である。現在、人工知能（AI）の普及などに伴ってデータ量が爆発的に増加しており、従来の「銅線（電気信号）」による伝送は速度遅延と発熱が限界を迎えている。これを解決するため、世界中のデータセンターでは、電気信号を光信号に変える技術革新（光電融合・光相互接続）の実装が急速に進んでいる。この光通信を制御する次世代半導体のコアとなるのが「インジウムリン基板」だ。その製造に不可欠な、極限まで不純物を排除した「高純度インジウム」と「高純度赤リン」を安定供給できる世界でも数少ないメーカーがラサ工業である。

AI相場の主役が「脳（GPU）」から「神経（光）」へとシフトしつつある今、この分野で世界をリードする川上覇権企業へ資金を投じるべきタイミングが、まさに到来しているように感じている。

（三月の空）

老練の視座

人工知能（AI）開発の米アンソロピックが早ければ9月下旬から10月上旬にも米国市場へ上場するとみられている。評価額は6月に上場したスペースXを上回る2兆ドル（約320兆円）規模となる可能性があり、過去最大のIPOとなる見込みだ。これによりAI開発で激しく競ってきたオープンAIに上場時期で先行することになる。

日本企業もこの2つのAI企業を巡って動いている。SBIホールディングス（8473）の北尾会長はWebX 2026で「孫さんはオープンAIだが、僕はアンソロピック。僕の評価はずっと上だ」と発言し、アンソロピック支持を鮮明にした。SBIとアンソロピックは6月に生成AI「クロード」を活用した全社的なAX（AIトランスフォーメーション）推進で合意している。

一方、「株長者」記事での首位はソフトバンクグループ（9984）の孫会長。米オープンAIへの出資に加え、傘下の英アームHDの企業価値向上も追い風となり、AI戦略が奏功し保有額を拡大させ株高の恩恵を受けている。

生成AI2社の今後の動向と、日本を含む関連銘柄の動きに引き続き注目していきたい。

（M2）

きらきら星

日米の金利が高止まりしており、日本株も半導体株一辺倒だったが調整となり、行き場を無くした資金がバリュー株にシフトしている。日経平均株価は横ばいで相場状況は悪くないが、変動率が縮小した難しい相場になっている。ただ、AI 関連需要はまだまだ続くと思われ、半導体相場に回帰すると予想する。

注目銘柄としては、隠れ半導体銘柄である富士フイルムホールディングス (4901) を取り上げたい。8 月 6 日引け後に発表された 4 ～ 6 月期決算は純利益が市場予想に届かず、年初来高値となる 3,908 円まで上昇していた株価は翌日大幅安となった。ただ同時に、複合機を手掛ける完全子会社の富士フイルムビジネスイノベーション (旧富士ゼロックス) を「パーシャル・スピンオフ (分離・独立)」という手法で上場を検討するという発表もあった。構造改革を実行し半導体・ヘルスケア・バイオに投資していくという姿勢が出た発表だと思う。大分市の半導体工場新棟では、シリコンウエハーの研磨時に出るゴミを取り除く洗浄液「ポスト CMP クリーナー」を製造しており、最先端半導体製造の良品率を高める役割がある。日立、パナソニックなど事業の集中と選択を進めた会社の株価が上昇傾向になったこともあり、注目したい。

(黒コギ)

デジタルの俯瞰

十何年かぶりに訪れた京都は様変わりしていた。というのは、家族旅行に行ったという話なのだが、実際に街を歩いてみるとインバウンドの比率はかつてと比べてもさらに上昇し、特に清水寺などは日本人の方が少ないという言葉では足りないくらいで、日本人観光客の割合は1割にも満たないといっても言い過ぎではないくらいのものであった。特に印象深かったのは観光スポットに軒を連ねるお店たちで、かつてのような謎の人形や日本刀のキーホルダーがじゃらじゃらとぶら下げられている類の土産物屋は消え失せ、代わりに着物レンタルや抹茶のお店がひしめき合っていた。なるほど、と思った。ターゲットとなる客層が修学旅行生からインバウンドに変わったのだ。当然の変化だと思うかもしれない。けれど、こうした変化のできない企業は消えてゆく運命にあるのだ。

この話は、何の例え話に聞こえただろうか。AI 脅威論を思い浮かべた人もいるかもしれない。けれども、思い浮かんだのはゲオホールディングス(2681)のことだった。ゲオHDはかつて動画配信サービスによってDVD レンタル事業を破壊された。けれども、見事に業態変化を果たした。今では完全に2nd STREETをはじめとするリユースの企業に変貌し、ゲオ本体もゲームやスマホのリユースで稼ぐようになった。リユースラグジュアリーのOKURAも保有し、こちらも腕時計などのリユースが好調だ。コメ兵ホールディングス(2780)あたりとあわせて注目を続けたい。(パブリカ)

アナリストによる北陸企業便り

(織田真由美)

< 6340 澁谷工業 >

ボトリングシステムで国内トップ。飲料用の無菌充填システムでは国内シェア 80 ~ 90% とみられる。アジアや北米を中心に海外売上が拡大しており、海外売上高は約 4 割。

パッケージングプラント事業は食品や薬品・化粧品などの業界向けが中心、安定した需要があることや定期的なメンテナンスが必要なことが収益に寄与している。

2026 年 6 月期連結業績において注目すべきは受注の回復だ。半導体製造システムと医療機器（ニプロ向けに人工透析装置）を中心とするメカトロシステム事業において受注が前期第 3 四半期から急回復した。その結果第 4 四半期会計期間の売上高は 390 億円と四半期では過去最高となった。

受注が回復するなか、今期業績は売上高 1,500 億円、営業利益 160 億円見通し。いずれも過去最高となる見通しだ。来期業績についても 1 割程度の増収増益が期待できよう。

食品や医薬品、化粧品などが主要な需要先であり、更新需要やオーバーホールなどのメンテナンス需要が収益の支えとなることで、資本財セクターでありながら業績の変動が他の機械株ほど大きくない点は強みであるものの、決算発表後に株価が急騰したことで足元の株価はやや調整気味と考える。投資判断は N E U T R A L とする。

米株中僧

月足



週足



出所：ブルームバーグ

IONQ イオンキュー (米 NYSE 上場)

エヌビディアが市場予想を上回る好決算を発表。現在 AI 関連株の高値警戒感、金利動向などから、成長株、テーマ株に利益確定の売りが出やすい環境になっている。

そこで注目したい銘柄はイオンキューである。次世代技術として注目される量子コンピューターを手掛ける米国企業だ。業績面は成長しており、2026 年 4 ~ 6 月期の売上高は 8005 万ドルと前年同期比 286%増を記録し、2026 年売上高見通しは 2.8 億ドル~2.9 億ドルへ従来予想から 0.2 億ドル引き上げた。さらにスカイウォーターテクノロジーの買収により、量子コンピューターの開発、設計、製造を一貫して手掛けられるようになった。量子コンピューティングだけでなく、量子通信、量子セキュリティ、センシング、宇宙通信など事業を拡大している点も魅力である。ただ利益を安定的に出せるような段階ではないのも事実であり、「AI の次の成長テーマ」として注目したい。
(順張り大魔王)

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

国内株式等の売買取引には、約定金額に対して最大 1.201750%（税込）（1.201750%に相当する金額が 2,612 円未満の場合は 2,612 円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。

外国株式（外国 ETF、外国預託証券を含む）の外国金融商品市場等における委託取引にあたっては、売買金額（約定金額に外国金融商品市場における手数料と税金等を購入の場合には加え、売却の場合は差し引いた額）に対し、最大 0.990%（税込）の国内取次手数料をいただきます。外国金融商品市場での取引にかかる手数料、税金等は国（市場）により異なります。外国株式（外国 ETF、外国預託証券を含む）の売買、配当金等の受取り等にあたり、円貨と外貨を交換する際は、外国為替市場の動向をふまえて今村証券が決定した為替レートを用います。

国内株式、外国株式等は、株価など売買価格の変動、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。